

2011年7月16日(土) 13:05~14:35

復興シンポジウム「大震災から学ぶこと」 13:30-13:40 (行政の立場から)

武末 文男(奈良県 医療政策部 部長)

【部局長マニフェスト】

21世紀の奈良にふさわしい医療を確立します

地域の医療機関の役割分担と連携を図ることで、生活習慣病から救急・災害医療などを充実させていきます。それらの新しい医療を担う“ならの総合医”の養成も行います

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

震災発生後の出来事と武田さんと奈良県の行動(時系列 1/2)

月日	震災後	出来事	武田さんの行動	奈良県の医療支援
3/11 (金)	当日	東日本大震災 M9.0、最大震度7 JR線不通	子供を学校に引き取りし、自宅に戻ったところで津波にあう 自宅は55cmの床下浸水で半壊に判定。裏山の保育所に 徒歩で避難、その際に携帯電話を落とす。車庫の車3台は 浸水で廃車になる。避難所でも断水・停電・電話不通、備蓄 食料もなかった。トイレの使い方、緊急171の使い方、名簿 の作成など手伝う 情報はラジオのみ 薬もマスクもなく、 外は雪が降り寒い部屋で咳こみながら一夜を過ごす	3/11 15:00 DMATに待機命令 17:25 統括DMAT陸路にて、 仙台医療センターへむけ て出動
3/12 (土)	2日目	福島第一 原発水素 爆発	給水車で飲み水と、朝食のおにぎり配給あり。 水が引いたので自宅に戻り薬を飲む。 自宅の危険なガラスなどを片付け、避難所の炊き出しを手 伝う。 近くの病院に行くが電気・電話不通・断水だった。	3:00 県内のDMAT3チームに 待機命令 6:00 自衛隊機にて、花巻空港 (岩手)に出動 10:00 統括DMAT陸路仙台 医療センターで活動開始
3/13 (日)	3日目		自宅周辺の瓦礫や泥の片付け 余震が続いており、居間に懐中電灯を照らし集まって寝る。 井戸水を分けてもらいプロパンガスで調理できた。排泄は 庭。	am 福島で、放射線量が、通 常の2倍との注意喚起 各DMATより、「重症者が ほとんどいない」と報告あり
3/14 (月)	4日目	東京電力 で輪番停 電	山形の実家弟が来て石巻赤十字病院を受診するが、主治 医の診察は受けられず3日分の処方箋をもらう。しかし薬局 が閉まっているため、山形の実家へ帰省。	3/14 統括DMATは、ガソリン の確保ができず撤収 保健衛生班 気仙沼へ派遣
3/15 (火)	5日目	福島原発 30km圏内 屋内退避	山形大学病院にタクシーで受診する。 薬品不足で2週間分限度の処方、薬局に薬がなく後日届け てもらった。 携帯電話の手続きし、ネクサスなどと連絡とれて助言を受 ける。	3/15 他の3チームも撤収 統括DMAT 奈良に帰投 気仙沼市に、「医療救護班」 の派遣を決定

震災発生後の出来事と武田さんと奈良県の行動(時系列 2/2)

月日	震災後	出来事	武田さんの行動	奈良県の医療支援
3/16 (水)	6日目		スーパーも品薄で、買出しに奔走する。	3/16 資材等の調達開始
3/17	7日目		ガソリンスタンドに5時間ならぶ。	3/17 気仙沼への資材 補給路は、花巻空港 →平泉(ベース) →気仙沼と決定
3/18	8日目	山形に3000人避難 透析患者の避難	食料を持って被災地に一時戻る	
3/19	9日目	携帯電話のアンテナ復旧。		3/19 医療救護班 4トントラックの資材ととも に気仙沼へ出発
3/20	10日目		近所の親戚にガソリンや乾電池を譲ってもらう。	3/20 活動開始
3/21	11日目	電気復旧		
3/22	12日目		JAFや保険の問い合わせなどの手続き	
3/23	13日目	水道復旧し入浴可		
3/24	14日目	東北道再開		
4/7	28日目	震度6の余震で停電・断水		
4/14	35日目		石巻赤十字病院 放射線科の経過観察受診 かかりつけ患者の予約受け入れは可能になっていた。	

震災で壊滅した “がん医療提供体制”

- ・ がんは生命に関わることから、通常、最優先
- ・ がん患者の優先順位が相対的に低下
 - 震災により、多くの方が生命に関わるようなリスクを負った
- ・ ライフラインの壊滅で、がんによる死亡よりも、震災・津波による死亡のリスクが高くなった
- ・ 避難所から消えた?! がん患者
 - 遠隔地に避難したのか
 - 避難所にいるけれども、わからないのか
 - 存在を主張しないのか

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

優先順位が低かった“がん治療”

- ・ 慢性疾患であるがんは、優先順位が低い
 - 避難所生活などの、集団生活において、生命に関わる病気ではあるが、直ちに、生命に影響を及ぼすものではない
- ・ 外見的にわからないため、集団生活における配慮もない
 - 東北人の、「耐える文化」の影響が強い
- ・ 医療機関の能力低下もあり、急性期医療に専念
 - トリアージで“がん”は緑？！
 - 震災によるダメージを受けたことから、医療機能も低下

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

道路の崩壊・車の流出・ガソリン不足の悪影響

- ・ がん治療は、“アクセス”よりも“医療の質”を重視する疾患で、遠くの医療機関を受診
 - 大病院には、患者があふれ
 - 病院まで行けないので、我慢するしかない
- ・ 主治医、かかりつけ医療機関による治療中心のがん治療
 - 薬や診療経過の流出で、飛び込み受診が続発

ガソリン不足等、移動手段の欠如

医療機関の被災により、がん医療は崩壊した

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

集団生活で、受けられなかった“がん治療”

- ・ 東北は、地域によっては、地域コミュニティがしっかりしていた
- ・ しかし、地域住民が、がん治療に対して、十分理解していない
- ・ 避難所等で、がん治療のための情報や医療機関へのアクセスを確保することは困難だった
- ・ 避難所で、よく耳にした言葉。「私のようなものが、生き残ってよかったのか？ That saved a wretch※ like me.」 ※ 気の毒に思える人、邪悪な行為をなす人

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

今後の災害に対する備えとして

- ・ 被災地において、がん患者の治療等の優先順位が下がること → 仕方がないことなのか？
- ・ 一般の人が、がん医療に対する理解を、日頃から深めておく必要がある
- ・ いざという時には、どこでも治療が受けられることが必要
- ・ 自分の受けているがん治療については、常に手元に置いておく必要がある
- ・ がん患者同士の互助組織を、インフラとして整備

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

災害時がん患者（東北の方）が必要な情報

1. 私の地域の今日の情報
2. 奥ゆかしい東北文化の解消
3. 災害時という非常時でも、がんの治療をしても、いいのだというメッセージ
4. それに対するコミュニティサークルの承認

障がい者、アレルギー患者などにも、共通する課題

災害への備えは“まず共助”= 官ではない公

- ・ 常日頃の備えが、いざというときに役に立つ
 - とくに、がん仲間は重要
- ・ “孤独な闘病”は、できるだけやめよう
- ・ “がまん”は、やめよう
 - 主張することは、わがままではない “コミュニケーション”
- ・ 被災地以外からの支援は重要
 - ご近所・地域・患者・医師・行政 多様な“セイフティ・ネット”
- ・ コンクリートか、人かではない
 - コンクリート(高速道路は役に立つ)も、人も、バランスよく

Amazing Grace ! How sweet the sound. That saved a wretch like me.

生き残った者の“使命”は、一つ

Amazing Grace !

生きる。

(奈良県DMATの後方支援者達)

もし、救急医療担当が ドラッカーの「マネジメント」を読んだら



ピーター・ドラッカー 経営学の父と呼ばれる経営学の大家
その著書「マネジメント」は現代ビジネスマンのバイブルと言われている

これは、その「マネジメント」を手にした救急医療担当者が
救急搬送ルールを策定するまでの物語である

せんとはマネジメントと出会った

○救急搬送人員・・・52, 433人 うち重症・死亡4, 235人(平成21年)

○重症以上の救急搬送で病院への照会が4回以上 11. 8%

○全国平均 3. 2%

☆ 13消防本部、救急車77台

☆ 救急告示病院、病院群 輪番制参加病院など県内病院75病院

せんとは、“救急医療”の改善のために、搬送ルールを作り、“搬送”を介して、13消防本部と75の病院を“マネジメント”することを考えた

せんとはマネジメントに取り組んだ

「マネジメント」には、こうあった。

企業の目的と使命を定義するとき、出発点は、ひとつしかない。顧客である

顧客によって事業は定義される

「顧客は誰か」との問いこそ個々の企業の使命を定義するうえで最も重要な問いである

救急医療の「顧客」とは？

- ・傷病者。でもこんな単純ではない。
- ・傷病者の家族だけでもない

救急隊や医療機関も一番大切な顧客

せんとはマーケティングに取り組んだ

「マネジメント」には、こうあった。

真のマーケティングは顧客からスタートする
顧客が「”価値”があるとし、”必要”とし、求めている”満足”がこれだ」ということを調査する

- ・13消防本部への聞き取り
救急隊は、医療機関に何を求めているか
- ・医療機関へのアンケートと聞き取り
医療機関は、どのような患者を求めているか
医療機関は、受入に際してどのような情報を求めているか

せんとは専門家の通訳になろうとした

「マネジメント」には、こうあった。

専門家は専門用語を使いがちである。ところが彼らは理解してもらって初めて有効な存在となる。専門家のアウトプットを顧客の言葉に翻訳することもマネジャーの仕事である

「観察・選定シート」は、傷病者の症状に適切に対応できる病院を選定するために、“傷病者のどのような症状”について、「観察」し、「医師に伝える」べきか、明確にした。つまり、だれでも、適切に傷病者を“観察”して、“必要な症状”を、医師に、もれなく伝えるための「翻訳シート」である。

救急隊の判断を、医師が正確にわかる言葉に翻訳した

せんとは人の強みを生かそうとした

「マネジメント」には、こうあった。

自己管理の最大の利点は、自らの仕事ぶりをマネジメントできるようになることである。自己管理は強い動機付けをもたらす。適当にこなすのではなく、最善を尽くす願望を起こさせる。

こういう症状の傷病者なら対応できるというものを病院から自己申告してもらい県が変更の有無を確認したうえで、「日々の病院リスト」を作成し、消防に提供した

“脳卒中”と分かっている、受け入れを断る
“脳外科医”は一人もいない

せんとは戦略と現状について考えた

「マネジメント」には、こうあった。

市場において目指すべき地位は、最大でなく最適である
独占的な供給者の業績は、力ある競争相手がいる場合よりも劣ることが多い

最大の患者を受け入れる“欧米のER型救急医療”ではなく

- ① 最適な判断の下
- ② 最適な時間内に
- ③ 対応可能な最適な医療機関に

救急患者を確実に搬送する最適なシステムを構築する

せんとはイノベーションに取り組んだ

「マネジメント」には、こうあった。

マーケティングだけでは企業は成功しない。イノベーションすなわち新しい満足を生み出すことが必要である。イノベーションとは、科学や技術そのものではなく価値である。組織の中ではなく、組織の外にもたらす変化である。

救急隊は搬送時間で評価される→救急隊が、患者が治療したかどうかで評価される仕組みづくりを始めた

すべての救急搬送先病院で患者の予後を把握することにした
把握する情報は、検査や処置内容、確定診断名など

すると、医療機関の患者を受け入れる基準が変わった

せんとは成果について考えた

「マネジメント」には、こうあった。

成果こそ、すべての活動の目的である

成果よりも、努力が重要であり職人的な技能それ自体が目的であるという錯覚を生んではならない

せんとは、収集したデータを整理・分析して、一定期間ごとに救急隊と医療機関にフィードバックする仕組みづくりを始めた

救急隊には、傷病者観察技量の向上することにより、**患者の治療**という成果を見える仕組みを構築した

医療機関には、受け入れ率ではなく、**地域全体での治療成績**という成果を見える様な指標を設定した

せんとは真摯さとは何かを考えた

平成23年1月31日 午後6時

「奈良県傷医療機関に病者の搬送及び受入の実施に関する基準」
運用開始

医療機関に、その日の受け入れられる症状等について変更が無いかを毎日電話で確認して作成する「日々の病院リスト」を救急隊に提供し、また救急隊から医療機関に引き継いだすべての救急搬送記録(約4,000件/月)をデータベースに入力するために専任職員を3名配置

救急搬送について、現時点で目立った効果は現れていないが、改善のための仕掛けはできた。すなわち、顧客(救急隊や医療機関)が求める救急搬送を生む仕掛けが。。。

せんとは、この仕組みをもとに、真摯に救急搬送を
“マネジメント”しようと思った

<エピローグ>

資源を上手に活用すれば生産的な 仕事ができる

マネジメントの対象は、「人」「物」「金」の三つ

21世紀の情報化社会においては、「情報」が最も重要な資源
人は、よく「物」と「金」を求めるが、「物」と「金」は使えば減り、なくなる。しかし

「人」と「情報」は、使えばふえる

よい「人」と交われば良い人脈が広がり、
よい「情報」を作れば、よりよい情報が帰ってくる

私達が、学んだことは、最も大切な資源は、「気」つまり、「元気」と「勇気」
元気と勇気を使えば、取組に活力がみなぎり、周りの人を、さらに元気にする

「元気」と「勇気」も、つかえばふえる

本当に大切なもの

まずは「情報」、そして「元気」、最も大切なものは「勇気」

災害派遣医療チームの後方支援者達

